

「特別講演」「テクニカルセミナー」「アトリウムセミナー」の開催、 「大学研究室ブース」の開設を通し、“鍛圧ソリューションの最前線”を発信



MF-Tokyo2009 へ 日本塑性加工学会が参画して

社団法人日本塑性加工学会
理事

高橋 進

MF-Tokyo2009 への日本塑性加工学会の参加依頼を、昨年、(社)日本鍛圧機械工業会から頂戴し、当学会理事会で検討させていただいた。その結果、MF-Tokyo2009 のような産学連携行事への参画により、多くの中小企業の各社に日本塑性加工学会の活動を知っていただく良い機会であり、また、厳しい社会情勢の中、学会の会勢拡張にもつながることから、積極的に協力させていただくこととした。その後、当学会内の学会活性化ワーキンググループで内容を検討し、当学会理事会等で議論を重ねて、プログラムを決定した。以下に、学会として参加したイベントの

内容と所感等を述べる。

展示会の開催に先がけて行われた、オープニングセレモニーでは、日本塑性加工学会の小豆島明会長が学会と企業との連携の必要性を強調した祝辞を述べた後、他の来賓の方々と共に展示会開催のテープカットをさせていただいた。当学会としては、主に下記2つのイベントに参加した。

1) 日本塑性加工学会 テクニカルセミナー

2) 日本塑性加工学会 研究室展示
テクニカルセミナーは、10月14～16日の3日間開催され、14日：板成形、15日：超音波利用等の特殊

加工、16日：鍛造を中心とした最新研究に関する講演を各40分行った。テクニカルセミナーのプログラム内容の検討では、当学会の対象研究分野の中から、展示会に参加する方々の多くに興味深く聞いていただけるように、鍛圧機械のプレスによる成形に強く関連する板成形と鍛造の研究紹介をメインテーマとした。板成形では、自動車の軽量化に適用されているが成形性向上に課題がある高張力鋼板の成形技術および成形性向上に期待が持てるサーボプレスの成形事例等の紹介を行った。また、鍛造では、鍛造の今後の技術革新、サーボプレスによるマグネシウム合金の成形技術や鍛造において成形性と深く関係する潤滑技術等を講演した。

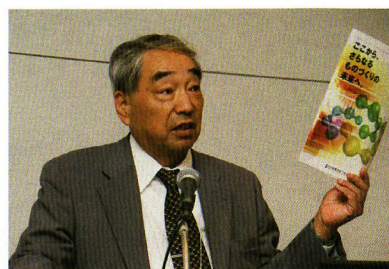
また、今後更に鍛圧業界との関連を強くしたいシーズ技術である、超音波応用加工、マイクロ加工および粉体加工等の紹介も行った。講演者としても、講演分野で牽引的な研究を行っている当学会の研究者および分科会の代表者が行った。講演会場は、100人以上収容可能な大きさだっ

□特別講演



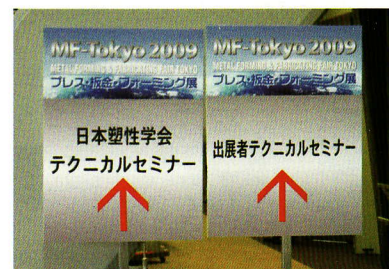
牟田弘文トヨタ自動車常務役員が「トヨタの環境に配慮したモノづくり」と題し特別講演。

□日本塑性加工学会テクニカルセミナー



塑性加工法の最前線と技術成果を披露した。

□出展者テクニカルセミナー



国内外を代表する出展企業が自社技術を紹介。

■併催行事

- 特別講演 トヨタ自動車㈱ 常務役員 牟田 弘文氏
- セミナー テーマ「鍛圧ソリューションの最前線」
- ①日本塑性加工学会 テクニカルセミナー
(展示会期間中 18講座)

- ②出展者テクニカルセミナー (展示会期間中 18講座)

- ③アトリウムセミナー (展示期間中 47講座)

- 日本塑性加工学会研究室ブース 20研究室

■特別協賛

日本塑性加工学会／日本鍛造協会／優秀板金製品技能フェア

だが、テクニカルセミナーでの18講演の内、13講演で会場が満席となり、参加者の講演内容への関心の高さが伺えた。テクニカルセミナーは、学会活動をまず知っていただくことに、大きく貢献したと考える。今後の課題としては、今回の場合、講演の後の質疑応答の時間がとれなかったもので、講演者と参加者間でのコミュニケーションの時間があると更に良かったと思う。セミナーの後に、講演者をパネラーとして意見交換をして、より講演者と参加者の距離を短くしていくことも大切と感じた。

また、テクニカルセミナーの隣の会場では、展示会への出展者のテクニカルセミナーが行われ、セミナーのオープニング講演では、プレス加工技術の動向を当学会の研究者が講演し、こちらも満席となり好評であった。

研究室展示は、アトリウムのセミナー会場を囲む形で、10月14～17日の4日間、塑性加工および新材料等に関する研究を行っている日本塑性加工学会所属会員の大学等

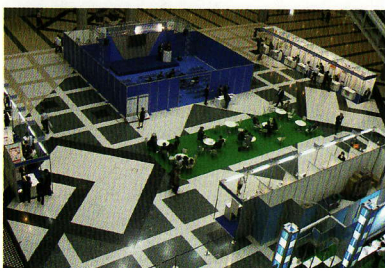
の20の研究室の最新の研究成果をパネルと成形品展示等により紹介した。多くの参加者が、各ブースに立ち寄られ、研究の状況および研究内容の実際の製品への応用の可能性等について、質問されていた。展示では、立派なブースを用意していただき、統一感を持って研究内容を紹介出来て、大変良かったと思う。多くの研究室で学生が研究内容の説明を行った。学生にとっては、自分の研究を学外の方に紹介する貴重な体験となったとともに、プレゼンテーションスキル向上の一助になったと思う。より積極的に研究内容を参加者に知っていただくために、アトリウムのセミナー会場で、研究内容のショートプレゼンテーション等もあると良いと思う。

また、展示会への参加者の方々に、学会活動を知り、理解していただく良い機会だったので、当学会もブースを出し、学会紹介パンフレットの配布および出版物の紹介等により学会活動のPRを行い、その効果も表れてきている。

MF-Tokyo2009への日本塑性加工学会としての参加は、貴重な経験になったとともに、当学会のプレゼンスの向上、および産学間の更なる連携強化の大きな一歩になったと思う。今後とも、(社)日本鍛圧機械工業会をはじめとする関連工業会、協会とのコミュニケーションを良くとり、双方の更なる活性化につながる活動を進めていきたいと思う。例えば、2年後に予定されているMF-Tokyo2011への積極的な参加等を今回の参加経験を踏まえて、上述したような改善および新たな提案等を検討していきたいと思う。

最後に、MF-Tokyo2009へ日本塑性加工学会が参加するにあたり、多大なるご協力およびご支援を頂いた、(社)日本鍛圧機械工業会および(株)日刊工業新聞社のスタッフ等の皆様方とテクニカルセミナーおよび研究室展示にご協力いただいた当学会関係の方々に、深甚なる謝意を表します。

□アトリウムセミナー



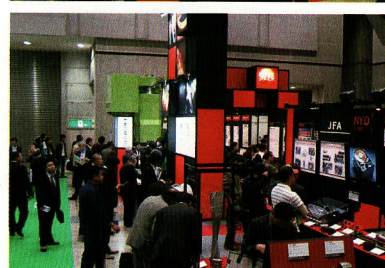
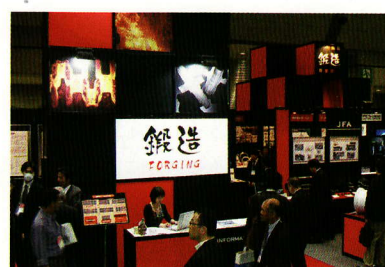
アトリウムにおいても出展者技術説明会(ワークショップ)が開かれた。

□大学研究室ブース



日本塑性加工学会特別協賛のもと、20の大学研究室がアトリウムにブースを開設した。

□特別協賛 日本鍛造協会ブース



特別協賛の日本鍛造協会からは27社が出展。